

板本と改め、脇指計帯之。」とある。

イタモト 板本 ↓イタマヘモノ 板前者。
イタヤヒヨウシロウ 板屋兵四郎 能美郡

小松の町人。算技に長じ、寛永九年前田利常の命により屏川の上なる上辰巳村の山腰を疏通し、小立野を經、水を城中に導いて防火の用に供した。又寛永十四年には越中新川郡常願寺川の上、大岩の近邊高原野新田用水の工を起し、中孫右衛門・山本又四郎二人奉行となつたが、その揚水は兵四郎の指揮する所であつた。兵四郎は下村氏で、父藤兵衛の時大坂附近の芝引村から小松に移住したものであるといふ。その家の由緒書には『兵四郎儀板屋と家名相改申候。微妙院様御代被爲召出、御用相勤申候。金澤御城へ水取上候儀、三重記に記申候。且又御領國御仕法等相考可申上旨被爲仰出候に付、御仕法敷々條相調書上申候。右ヶ條書之扣所持仕候。中略。右扣等共後雨漏にて朽損申候。兵四郎儀承應二年病死仕候。』とあるが、兵四郎が能登の小代官であつた間に下村兵四郎と書いたものもあるから、彼が板屋と改めた如くに解せられてゐるのは誤なるべく、その前後共に町人としては板屋を稱したのであらう。又世に藩が辰巳用水築造の祕密漏洩を防がが爲、兵四郎を殺害せしめたと傳へるも、前記によつて誤であることがわかる。或は寛文四年五月横死した土屋勘四郎義正のことを取違へたかと思はれる。兵四郎の嫡子甚右衛門以下世々小松に住んで肝煎役を勤めてゐた。

イタヲ 板尾 石川郡河内庄に關する部落。

イタヲキコウ 板尾紀行、一冊。石川郡の

山中なる板尾に板尾淵があり、その附近に宿岩又は堂岩といふ泰澄大師の舊蹟といふものがある。この書はそれを見に行つた紀行で、卷尾に文化十一年卯月有雪軒澄園と記され、白山長吏の著である。

イチアンニヨセイ 一庵如清 曹洞宗の僧。薩摩の人。眞化玄惇に師事して法を嗣ぎ、總持寺に出世した。能登の神保氏、實相寺を立て、一庵を開山とし、後總持寺を司つた。

イチオン 一穩 金澤時宗玉泉寺の僧。第十七代桂光院共阿一穩と稱する。安政五年三月八日示寂。

イチガイハヤ 以知我窟 白山目附谷の西岸に在る。巖間に自然の磴道があり、蹶蹶して登るべく、湖口東に向かひ、廣さ二丈ばかり、高さ亦之に稱ふ。幽邃秀絶居るべきであると記される。泰澄記に僧一徹が唯溪西岸の洞中に隠れてゐたといふものは是である。

イチカハ 一川 ↓イチカハ 市川。

イチカハ 市川 石川郡横江郷に在る部落。白山宮莊殿講中記録の白山本宮臨時祭次第事の條に、『安貞二年戊子四月八日丁亥始之願主惣貫主法眼成辨、御供頭寅前入道行西横江一川住。』とある一川も、この市川である。

イチカハサンセン 市河三千 諱は三千、字は桃翁・恭齋又は古學庵と號した。實は讃岐の人で、米庵の養子となる、最も小楷を善くし、又鐵筆に長じ、吟詩を愛した。天保四年六月廿七日三十八歳を以て歿。

イチカハスイアン 市河遂庵 通稱三治郎、諱は三胤、又胤とも書く。字は士成、號は遂庵又は三山居士。實は大聖寺藩横井百翁の次子であつた。米庵養つて之を子とし、その女

に配した。遂庵亦書に巧みで、嘉永三年米庵の後を襲ぎ、祿二百五十石を受けた。

イチカハトクアン 市河得庵 名は周吾、後小左衛門、更に三鼎と改めた。遂庵の子。天保五年生まれ、又書を以て加賀侯に仕へた。

イチカハベイアン 市河米庵 幼名才次郎、後三亥と改めた。諱は孔陽。米庵は其の號で、別に小山林堂・金洞山人・半千筆齋・樂齋亦願道人といつた。江戸の儒覽齋の子で、最も書道に達して居たから、文政四年正月前田齊廣は二百五十石を興へて頭並に班せしめ、世子齊泰の師たらしめた。是を以て金澤に來たことも亦兩三次であつた。嘉永三年七十二歳で致仕し、養老の資二十人扶持を受け、安政五年七月十八日江戸で歿した。享年八十。著す所米家舊談・米庵墨談等がある。

イチカハヤゴヘイ 市川彌五兵衛 祿五百石。前田綱紀の時諸士の邸地を檢地したが、彌五兵衛は親の時代に高祿で、廣大の邸地を觀音町附近に有して居たので之を背じなかつた。綱紀乃ち憤り、萬治二年奥村因幡に命じ、御横目茨木源五左衛門・山崎五左衛門、捕手小頭森川五郎左衛門・寺尾勘助をして、その家を襲うて彌五兵衛を斬殺せしめた。彌五兵衛は或は右馬助にも左馬助にも作られる。

イチキイツカク 一木逸角 初めて前田利常に仕へ、祿を加へて七百石に至つた。子孫藩に世襲した。

イチクスイテイ 以竹瑞貞 曹洞宗の僧。得田秀章の三子で、羽咋郡土田の道興寺を再興した。

イチゲン 一殿 白山遊覽圖記に泰澄傳を引いていふ。一殿は越前越智山下の人であつ

たが、十七歳にして泰澄に従ひ、後白山に登つて唯溪の西岸洞中に隠れ、惡龍の苦患を救ひ、遂に豫め死期を告げて寂したと。蓋し小説中の人であらう。

イチジヨウ 一乘 鳳至郡谷内の内の小字。イチジヨウイン 一乘院 鳳至郡中居南にあつて、眞言宗に屬する。醫王院・觀音院・蓮臺院・月光院と共に、もと山王權現の別當であつた。

イチジヨウジヨウ 一乘寺城 河北郡北横根にあつた。その地を城山又は升形山と稱する。加・越の界で二國に跨つてゐる。

イチジヨウホウ 一乘坊 羽咋郡徳田なる安養寺の衆徒で、眞言宗に屬した。今矢田に轉じて居る。

イチニウカクモン 一入鬘門 石川郡大乘寺三十九代の住持。越前の人、山上氏。明珠心に投じて出家し、大圭海に業を受け、享保十一年冬大乘寺に首衆となり、智燈照立に嗣法し、十二年七月永平寺に出世した。元文三年二月淨住寺に移り、延享四年十一月長州功山寺に住し、寶曆三年二月防州の禪昌寺に轉じ、同年九月六日大乘寺に入り開堂し、一住七年、九年三月退山して、越の慈現菴に退隱し、明和二年庵號を改めて陽林寺と號した。四年六月四日七十八歳にて寂。

イチニヨウジュン 一如孝順 金澤寶圓寺十五代の住持。生國は伯州、享保十五年三月越中水見光禪寺より進山し、同廿年十二月隱居、寛保三年九月廿五日遷化した。

イチネンジ 一念寺 鳳至郡鹿波に在つて、眞宗東派に屬する。山號は白雲山。

イチノサカ 市ノ坂 鳳至郡三井郷に屬す